

後悔  
しない

# 屋根材選び

屋根材は一番過酷な気象条件に晒されます。重量にとらわれず、**性能で選ぶ**ことが重要です。高温多湿、寒暖差のある日本の屋根には、**耐久性、断熱性、遮音性に優れた瓦**が最適です。

## 重い・軽いを心配している方へ

重い屋根と軽い屋根の木造住宅の構造の違いは、わずかな差です。

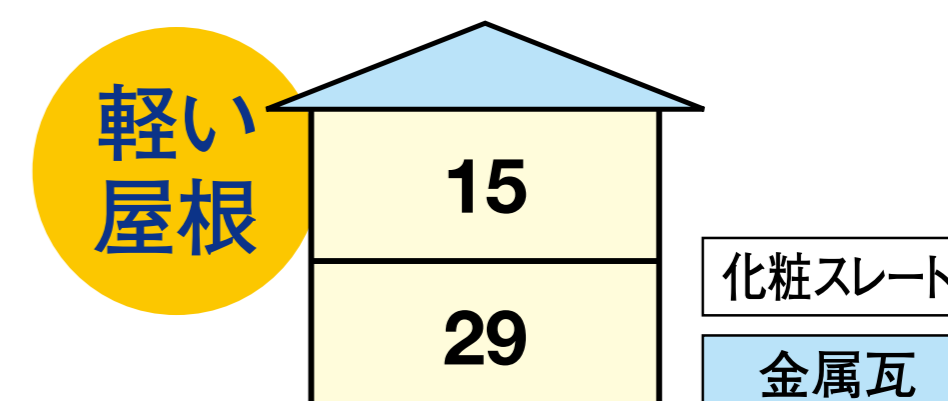
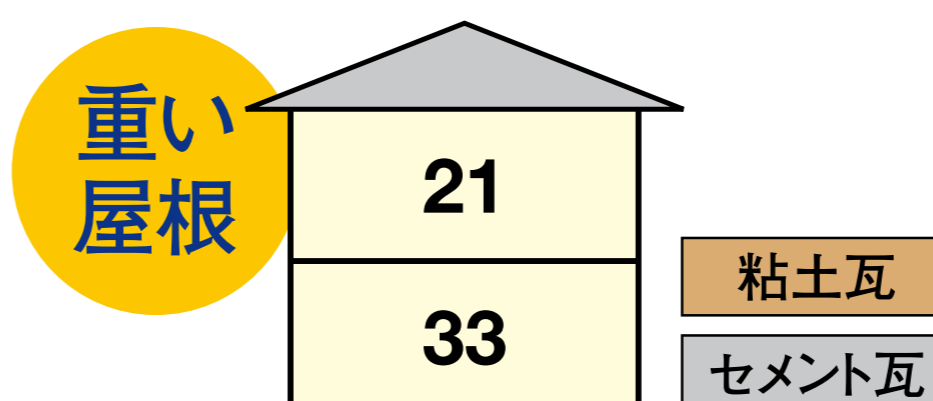
解説 地震に負けない頑丈な家の条件は、十分な耐力壁（筋交いなど）がある家です。

- 地震に負けない耐力壁の長さは、**床面積×必要な長さ÷壁倍率**で算出します。
- 壁の仕様ごとに壁倍率（壁の強さ）が定められています。

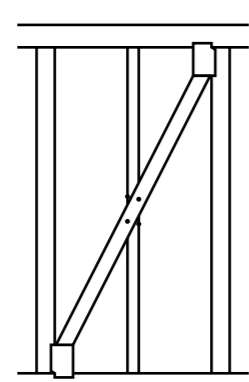
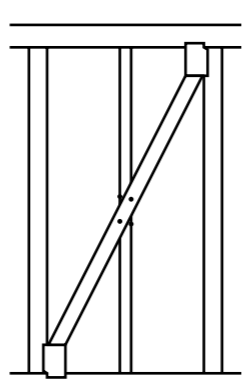
仕様	30×90	構造用合板	30×90たすき	45×90たすき
倍率	1.5倍	2.5倍	3.0倍	4.0倍

壁倍率が高いと壁の長さを少なく出来るので間取りの自由度が高まります。

- 屋根の重さで、必要な耐力壁の長さが定められています。（単位cm/m<sup>2</sup>）



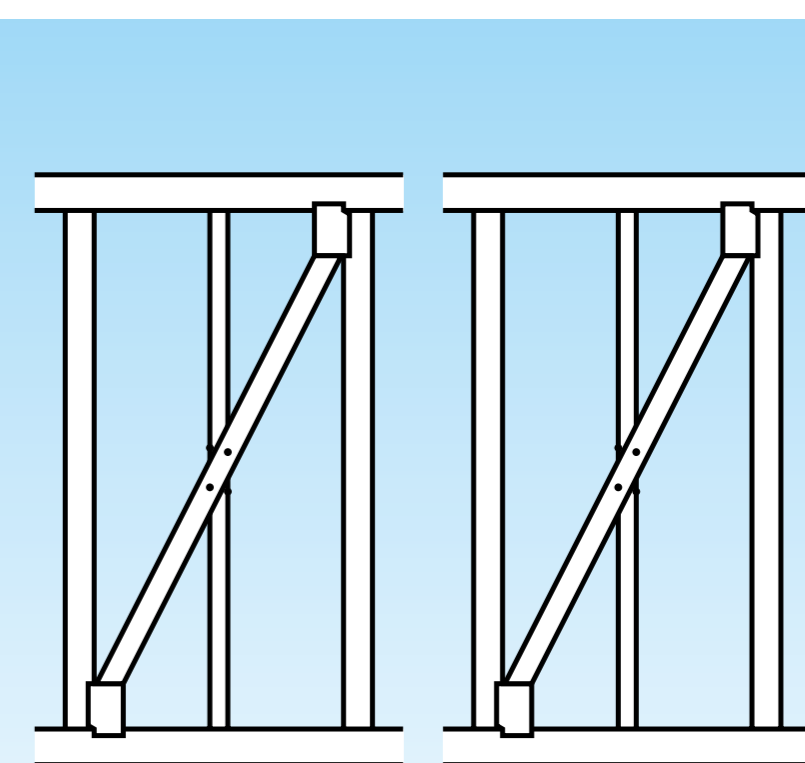
## 1階床面積25坪（82.5m<sup>2</sup>）で比べてみましょう

	重い屋根	軽い屋根
必要な耐力壁の長さ	82.5m <sup>2</sup> ×33cm/m <sup>2</sup> =2,722.5cm	82.5m <sup>2</sup> ×29cm/m <sup>2</sup> =2,392.5cm
1.5倍 <30×90筋交い>の 壁枚数	2,722.5÷1.5倍÷91cm = <b>19.9枚</b>	2,392.5÷1.5倍÷91cm = <b>17.5枚</b>
必要な壁枚数	 × <b>20枚</b>	 × <b>18枚</b>

重い・軽い  
の差は

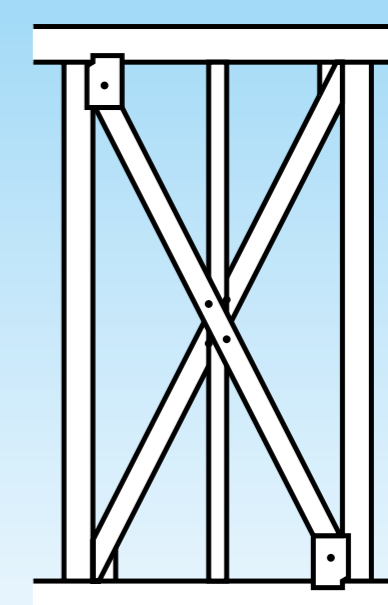
わずか  
**2枚分**

間仕切りを耐力壁にするだけです。



さらに

3.0倍壁に  
すると、**1枚分**



\*新築時の一般的な2階建て以下木造軸組構法の規定です。  
\*壁量は、住宅の両方向ごとに必要です。地震力よりも風圧力が上回ることがあります。  
\*配置バランス、柱の接合方法も確認する必要があります。